

家庭科教育支援セミナー報告レポート

「『生涯を見通した経済計画』って、どう教えるの？ どう評価するの？」

講師：久保田 正芳先生（神奈川県立光陵高等学校総括教諭）

実教出版編集部

1. はじめに

弊社ではこれまで、高等学校現場の先生方のご要望に応える形で何回となく家庭科教育支援セミナーを開催してきた。

2021年12月11日（土曜日）、弊社としては初めてのオンラインセミナーを行ったが、それに続き、2022年10月29日（土曜日）に2回目となるオンラインセミナーを実施した。

今回は、後から何回でも見られるようにして欲しいとの先生方からの強いご要望にお応えする形でアーカイブを残すこととし、撮影も行った。当日は、講師の久保田先生、弊社スタッフの他に、外部の撮影業者も数名参加した形での実施となった。本日は、その様子をレポートする。

今回のセミナーは第1部が授業実践例「家庭科で学ぶ資産形成—年金・金融商品をどう教える？—」、第2部は「評価活動 家庭科における指導と評価の一体化—ある一つの評価の例—」の2部形式で行われた。どちらも先生方から「どう指導すればよいのか、どうしたらよいのか」と多数お問い合わせをいただいたテーマである。

会場参加者は関東から7名、オンラインでは北海道から九州まで約30名の先生方にご参加いただいた。

2. 第1部 授業実践例

授業実践例には、主体的・対話的で深い学びやICTの利用が積極的に取り入れられ、「対話型教材」「思考を深める仕掛け」が満載であった。流れとしては以下のように進化した。

①学習指導要領・解説での扱われ方

まずは、「学習指導要領・解説」で経済の計画を

どのように扱っているのかの説明があり、続けていわゆる金融教育と言われている箇所「民間保険/株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴（メリット・デメリット）、資産形成の視点にも触れるようにする」を抜粋し、「リスクに対する資産形成（資金計画という言葉を用いている）を考察できるようにすることが目標」であることが説明された。

高等学校現場では、資産形成についてどこまで指導するのかといった困惑する声もある中で、資産を形成することが目標ではなく、リスクへの対処の方法を考えることが求められていることが確認された。これにより、家庭科での指導の目標が明確になった。

②実際のシラバスと単元の計画

次に、令和3年度のシラバスに基づき、7時間分の授業の流れと指導上の留意点および観点別評価・評価活動が紹介された。授業の流れは、以下のようである。

単元計画

1 時間目	課題設定と解決のための仮説の設定
2 時間目	未成年と成年の違いを契約の視点で理解
3 時間目	家計に占める住居費のバランス 賃貸契約を結ぶ際の注意点
4 時間目	消費者問題が起こるメカニズム 悪質商法の手口
5 時間目	資産形成とは？
6 時間目	金融商品の種類と特徴
7 時間目	パフォーマンス課題と単元のまとめ 学習の振り返り・冒頭の問いかけに 対する答え・自己評価

* アーカイブは当日セミナーに参加された先生が対象。一般公開はしていない。

図1 授業の冒頭で使用する「セルフチェック」

セルフチェック 最初の授業の課題設定の場面

質問	自己評価
収入と支出のバランスを考えている。	
家計簿などをつけて、お金の管理をしている。	
収入や貯蓄を把握し、お金を使うべきかどうか、「セルフコントロール」ができています。	
"計画的に"お金を使う習慣をつけている。	
「環境に配慮した商品か」など、そのモノ・サービスの"背景"を見通している。	
今後の資産形成について考えている。	

自己評価基準
 ○: () 自信をもってできている。 △: (++) まあできているほうかな... まあね... ×: () できていません

図2 ワーク (10分) 賃貸物件探し

ワーク (10分程度) 第2次

インターネットで住みたい賃貸物件を探してみよう。

スプレッドシートに共有【下記項目】
 ①家賃②管理費等③敷金④礼金⑤保証金⑥間取り⑦面積⑧選んだ理由

図3 ワーク (20分) 30歳までに200万円貯めるとしたら…

ワーク (20分程度) 第4次

30歳までに200万円を貯めるとしたら…

23歳からの7年間でいくらか貯めていく必要があるでしょうか?

その間、いろいろなライフイベントも起こるかもしれませんね。

自分自身の結婚、きょうだいの結婚、友人の結婚、車や住宅の購入、子供の教育資金、奨学金の返済などなど

最初の授業で、単元全体を貫く問いかけを行い、それを最後の時間に回収していくパターンである。生徒にとっては、問いかけられることで授業の目標設定への理解となり、何を学ぶのがイメージしやすくなる。また、自分なりの答えを模索しながら各要素をこなしていくことができるようになる。

③授業のポイント

この授業実践は、随所に生徒を飽きさせない、考えさせる工夫があることは冒頭でお伝えした通りである。

たとえば、最初の授業で活用する「セルフチェック」、インターネットで住みたい賃貸物件を探してみるワーク、貯蓄額に関する問いかけなどが用意されている。

図4 グループ討議 金融商品について調べてみよう (Classroom 配信)

グループで金融商品について調べてみよう。
 Classroom配信 (スプレッドシート共同編集) 第5次

長期・積立・分散がポイントと伝えましたが、具体的な金融商品と呼ばれるものの特徴を調べてみましょう。個人的なブログは調べる対象外。調べる視点は具体的な【リスク】と【リターン】です。先程示したものの深いバージョン。

株式・債権・不動産・コモディティ (商品) ・預貯金・民間保険について調べてみよう。

図5 学習評価について (2種類)

学習評価について (2種類)

◎記録に残す評価	◎指導に生かす評価
・教師が評価規準として設定した目標に、生徒が単元の授業を通して、生徒が資質・能力が身に付いたのかを評価する。 ⇒ 生徒の成績につながる評価 ・評価場面としては、毎時間行う必要はない。 ・評価する場合は、すべての生徒を対象とする。	・生徒がどのような学びの過程をたどったのか (学びの軌跡) を見取る質的な評価。 ⇒ 「アセスメント」であり、成績に直結つながらる評価ではない。 ・評価場面としては、毎時間行う必要がある。ただし、全ての生徒ではなく、一部の生徒でもよい。

このような生徒目線の投げかけやワークをはさみながら、「一生涯働き続けますか?」「働かない場合は生活費をどうしていきますか?」「その生活費ってどれくらいだと思いますか?」と、現実的な問題点 (公的年金はいくらくらいもらえるのか、かかる生活費とのギャップはどのくらいなのか、資産形成をする必要性など) を問いかげながら、生徒が自ら考える方向へと進めて行くのである。

このような双方向の授業を展開しつつ、最後にはパフォーマンス課題によって、生徒自身が振り返りを行うことでこの単元は終了する。

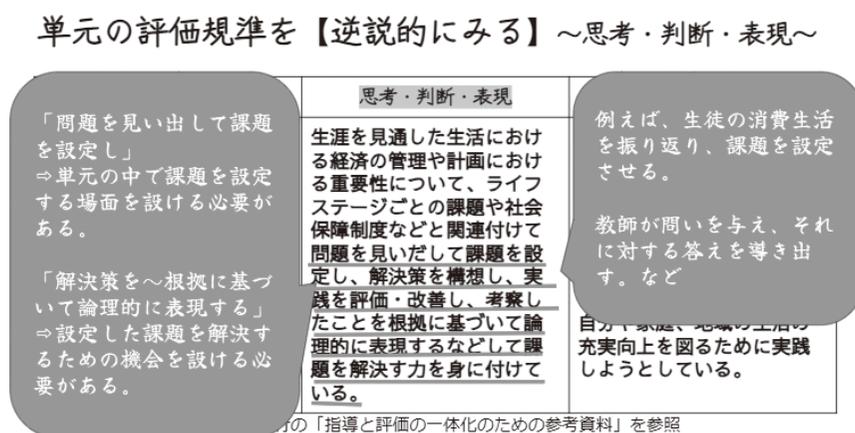
参加された先生方へのメッセージとして、「金融教育という考え方ではなく、生涯を見通した資産形成」が家庭科としての立ち位置であるとの解説があり、公民科との棲み分けについても提起があった。

また、人生が多様化していく中で、どの分野であっても学習要素を生徒一人ひとりが自分ごととして考えられるようにすることが教員に求められているという考え方を示して、第1部は終了した。

3. 第2部 評価の仕方

冒頭に、評価には「記録に残す評価」と「指導にいかす評価」の2種類があり、前者は生徒の成績に

図6 単元の評価規準を逆説的にみる～思考・判断・表現



105

図7 ポートフォリオの例

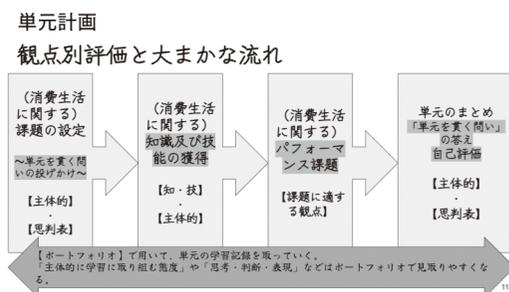


**ポートフォリオの一つ
「一枚ポートフォリオ」**

単元で一枚のポートフォリオをつくる。
・課題の設定
・日々の授業での気づき
・日々の授業の振り返り
・単元のまとめ
・自己評価

教師は生徒の気づきや振り返りを確認。教師の指導目標とのずれがないか、どのような気づきがあったか、次なる課題の示唆などをアセスメントする。

図8 観点別評価と大まかな流れ



つながる評価であり、後者は生徒がどのような学びの過程をたどったのかを見取る質的な評価つまりアセスメントであり、単元の中でこれら2つの評価を行うこと、すなわちそれが「指導と評価の一体化」であることが説明された。

続いて、具体的な評価規準を例にとり、評価規準を目標としたときに、どのような授業を想定するか、どう工夫していくかが重要であるということが説明された。つまり、各単元に於いて教員が方針を設け、その単元での到達目標を設定することにより、生徒がその目標にたどり着くための指導内容を検討するということである。

この考え方は、一昨年行った同セミナーで堀内かおる先生（横浜国立大学教授、「家基705家庭基礎」「家基707図説家庭基礎」「家総703家庭総合」代表著者）がおっしゃっていた「逆向き設計論」と同じである。

（弊社 Web サイト）

<https://www.jikkyo.co.jp/download/detail/53/9992>

660423

また、「主体的に取り組む態度」や「思考・判断・表現」などはポートフォリオで見取りやすくなるとのアドバイスもあった。ポートフォリオによって、教員は生徒の気づきや振り返りを確認することができ、教員が設定した指導目標とのずれがないか、どのような気づきがあったかなど、アセスメントに役立つというものである。

ポートフォリオはこれまで生徒による手書きだったものを1人1台のPC端末利用をきっかけとして、PC上で行うこととしたそうだ。

興味深かったのは、最後のパフォーマンス課題である「私のライフプラン」を600～800文字で作文するのであるが、これは「主体的に取り組む態度」ではなく「知識・技能」の観点で評価をしているということだった。

これは、『習得した知識や技能を踏まえて、自らの生涯を見通すこと、さらに生徒自身の興味・関心などを交えた社会状況等の情報収集を行わせたかっ

図9 ペーパーテスト出題例

ペーパーテスト出題例
国研作成「参考資料（事例1）」より

知識の概念的理解を問う
問題例

Q注文もしていない本がAさんのもとに送られてきた。同封の手紙には、「1週間以内に商品を返送しなければ購入したいものとみなす」などと記されていたが、Aさんは放っておいた。

(1) 次の①～③のうち、正しい説明を選び、選択の理由を述べなさい。

① 放置しておいたAさんには、代金の支払い義務がある。
 ② 代金支払い義務までは負わないが、商品は返送しなければならない。
 ③ 代金支払い義務も商品を返送する義務もない。商品は直ちに処分することができる。

☞ 解答③ 理由の例

【理由】一方的に送り付けられただけでは**売買契約は成立していない**ので、代金の支払いも返送の必要もない。☞ 評価B（おおむね満足できる）

評価A（十分満足できる）の判断は、例えば、法律に基づき、商品を開封したり、処分したりしても金銭の支払いは不要であることなどについて述べ停る場合

たから「知識・技能」として』そうである。

これは評価がその学習で何に重点を置いていくのかが重要であり、単にペーパーテストとかレポートなどの形だけにとらわれるものではないという教示とも言える。

また、最後に「知識・技能」の評価方法についてさらなる解説があつて、評価を行うことの難しさ・深さを知ることになる。

4. 「知識・技能」の評価方法について

授業に落とし込んだ観点別評価の具体的な説明があつた後、あくまでも個人の印象を前置きした上で、一番評価が難しくなつたと感じているのは「知識・技能」であるとの考えが示された。

「知識・技能」は単純に理解を見取るだけでなく、知識の概念的な理解を見取るところが難しいとのことだった。「知識・技能」を見取る評価の手段はペーパーテストであることにはこれまでと変わりはないが、新評価においては、①事実的な知識の習得を問う問題と②知識の概念的な理解を問う問題をバランス良く扱うように配慮となっており、その場で②の知的概念を問う問題が紹介されたが、単に回答を選択するにとどまらず、その理由を記述することも求められている。

これは、「知識・技能」は単に用語を覚える・答えるだけでなく、新たな現象が起きたときにその知識を応用的に活用することが求められているからだ

ということだった。

5. 感想

今回のセミナーでは、家庭科における資産形成とは、資産を増やすノウハウを覚えるのではなく、リスクが起こった際にどのような手段があるのかを理解していることだということがあらためて確認できた。授業の内容は各学校の状況に応じておこなうものであつて、一様ではないが、先生方の不安な思いを軽くしてくれたと思う。

また、評価への考え方についても、理解を深めることができた。

お忙しい中、ご講演いただいた久保田先生に感謝申し上げます。ご参加いただいた先生方のご指導にお役に立てれば幸いです。

(編修部注：下線部は国立政策教育研究所「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料（令和3年8月）」の総説より、「知識・技能」の評価についての解説と同趣旨の解説がある。また、第3編の事例にペーパーテストの例が紹介されている。)

久保田 正芳先生 プロフィール

神奈川県立光陵高等学校総括教諭。

国立教育政策研究所「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」協力者

実教出版「家基706Agenda 家庭基礎」編修委員